2020年度事業計画

◎：計画上回り　○：計画通り　×：計画下回り　未：未着手　※：中止

～職員一同は、慈泉会のバリューを行動指針とし、ビジョン達成に向けベクトルを合わせ、変化をチャンスと捉え、創意工夫によりスピード感を持って業務を遂行する～

事業計画	概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【慈泉会】													
1.　業務の生産性向上	①業務の標準化推進												
	・業務内容を評価し、業務タスクの分解・見直し・再構築を実施する	×	RPAのトライアルで対象業務としてリストアップした業務について着手した										
	・再構築された業務が、確実に定着するよう、教育の実践と反復を推進する		業務タスクの分解・見直し・再構築は一部に留まる。2021年度事業計画として継続。										
			2021年度事業計画：「間接業務の効率化と業務改善」										
	②効果的なICTの導入検討												
	・業務効率化の為のICTの導入を検討する（選択・デモンストレーション・有効性の評価）	○	操作性・機能性・アフターフォロー・費用面等から総合的に評価し、RPA製品として										
	・経営判断により導入の是非を判断する		UiPathが最適と判断し、導入ベンダーをTIS長野に決定。										
			2021年度事業計画として継続：「間接業務の効率化と業務改善」										
2.　事業体間連携による全体最適化の推進	・各事業体の連携について、状況を可視化（モニタリング・評価）する仕組みを検討・導入する												
	・モニタリング・評価結果に基づき、対応策を検討・決定し実践する	×	慈泉会が目指す「あるべき医療・介護・福祉のサプライチェーン」と、事業体間連携の実態との乖離や										
			問題点・課題の検討は一部に留まる。2021年度事業計画として継続。										
			2021年度事業計画：「事業体間の連携強化」										
3.　給食センター設置に関する検討	・先行事例の調査等、必要な情報収集を実施し、実現可能性について検討する												
	・導入に向けた、ロードマップを策定する	×	先行事例の視察・調査や情報収集を進め検討したが、事業形態等について方向性を示せず。										
			他医療機関との連携事業のひとつとして、2021年度事業計画において継続。										
			2021年度事業計画：「事業体別のエリア分析に基づく戦略の立案」										
4.　高齢者のさらなる増加に対応する新たな施設の設置・検討	①第3サ高住の設置（2021年4月開所）												
		○	計画通りに工事が進捗し、2021年3月末に竣工検査実施。3月末時点で予約が8割以上に達した。										
			開所式：5/13、入居開始：5/19										
	②地域密着型施設の検討												
	・今後予想される課題を明らかにし、必要な機能について検討する	×	慈泉会各事業体の圏域再検討と戦略立案を優先することとし、地域密着型施設については、										
	・先行事例の調査等、必要な情報収集を実施し、実現可能性について検討する		デイサービスの外出しと合わせて検討する。2021年度事業計画として継続。										
			2021年度事業計画：「事業体別のエリア分析に基づく戦略の立案」										
5.　インバウンドの拡充	海外向けプロモーションの実施												
	受け入れ対象疾患・治療の拡大	×	コロナによる渡航制限の影響で受入患者数が激減。陽子線治療患者2名の受入のみに留まる。										
	受け入れ体制の向上		一方で、セカンドオピニオンの依頼が9件に増加。2021年度も治療受入は継続する。										

2020年度事業計画

◎：計画上回り　○：計画通り　×：計画下回り　未：未着手　※：中止

～職員一同は、慈泉会のバリューを行動指針とし、ビジョン達成に向けベクトルを合わせ、変化をチャンスと捉え、創意工夫によりスピード感を持って業務を遂行する～

事業計画	概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【相澤病院】													
1.　広域医療圏からの集患対策	広域医療圏の病院・開業医との関係構築に向けた取組を推進する												
	顧客に選ばれる病院になるため、ニーズへの対応・サービスの提供を推進する	×	競合医療機関、都市計画等の情報を加味した医療圏域分析を、12月25日病院経営会議に報告。										
			以降、追加の分析・検討が困難であり、本件は2021年度事業計画として継続。										
			2021年度事業計画：「医療計画に定められた政策医療への対応」「主要疾患別の集患対策」										
2.　手術センター機能の強化	麻酔科医の確保対策を推進する												
		×	圏域内の手術マーケット、シェア予測等の分析を実施し、今後の方向性について麻酔科医と検討。										
			以降、追加の分析・検討が困難であり、本件は2021年度事業計画として継続。										
			2021年度事業計画：「医療計画に定められた政策医療への対応」										
	特定行為研修終了看護師の養成と配置を推進する	○	特定行為研修「術中麻酔管理領域」×1名が研修受講中で、2022年3月修了予定。										
3.　内視鏡センター機能の強化	内視鏡センター内鎮静エリアの拡大について検討する												
		○	リカバリーベッド8床確保のためのマスタープランを作成し、相澤理事長報告。継続検討の指示あり。										
			本件は2021年度事業計画として継続。										
			2021年度事業計画：「内視鏡センターの機能強化」										
4.　救急・高度医療提供機能の強化	救命救急センター内への観察用ベッドの設置・運用について検討する												
		×	相澤病院の救急医療ビジョン、達成に向けた課題について救命救急センターと検討。										
			以降、追加の分析・検討が困難であり、本件は2021年度事業計画として継続。										
			2021年度事業計画：「患者病態に合わせた救急医療体制の再構築」										
	集中ケア病棟（ECU・HCU）の環境整備について検討する	○	HCU内個室3床の陰圧工事完了										
		○	HCU12床化改修工事（2021年度計画）について予算申請、補助金申請済み										
5.　身体合併症を持つ精神疾患患者への対応機能の強化	精神身体合併患者の療養環境について、必要な情報収集の元に検討する												
		○	MPU稼働病院に対するアンケート調査を実施、検討結果を纏め、理事長・院長・病院経営会議へ報告。										
			引き続き、相澤病院における精神疾患合併患者の診療体制について検討を継続する。										
6.　業務の生産性向上	①診療記録（看護師・リハセラピスト）の見直し												
	・プロジェクトによる検討を実施する	○	ICT活用WG（菊池副院長・戦略企画・情報システム・財務）による検討を継続。										
			同分野におけるビジョン策定、中期計画を立案し理事長報告。継続検討の指示あり。										
			本件については、2021年度事業計画として継続。										
			2021年度事業計画：「医の心としての全人的医療」の実践										
	②効果的なICT導入の検討	○	オンライン診療システム（CLINICS）の導入契約を完了。										
	・業務効率化の為のICTの導入を検討する（選択・デモンストレーション・有効性の評価）		相澤病院での展開について検討を継続する（オンラインセカンドオピニオンの導入等）。										
7.　タスクシフティング・タスクシェアリングの推進	必要領域、必要数を決定し、特定行為研修終了看護師の養成を継続する												
		×	研修区分により、新型コロナウイルス感染下で必要な症例数が確保できず、年度内の修了が										
			困難な区分あり。「創傷管理」、「ドレーン管理」、「インスリンの投与量調整」、「高カロリー輸液調整」、										
			「脱水補正」の区分は、6月末に研修修了となるよう、継続中。										
		○	特定為研修修了看護師の指導・教育体制の整備および活用体制の整備・支援を目的に										
			「特定行為研修修了看護師運用委員会」を設立（2021年3月）。										
	救急救命士の業務範囲について検討する	○	救急救命士による転院搬送の実施を可能とした拡大（2020年度実績：689件）。										
			口腔内吸引実施のための「院内資格」整備を進めていたが、新型コロナウイルス感染下で										
			リスクが高いと判断し、ペンディング。										
			救急救命士の医行為（33項目）のうち、19項目でプロトコルを完成し、訓練を開始。										

2020年度事業計画

◎：計画上回り　○：計画通り　×：計画下回り　未：未着手　※：中止

～職員一同は、慈泉会のバリューを行動指針とし、ビジョン達成に向けベクトルを合わせ、変化をチャンスと捉え、創意工夫によりスピード感を持って業務を遂行する～

事業計画	概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【　相澤東病院　】													
1.　外来診療体制を拡大する	健康センターにて要精査となった受診者の二次検査受入	←→											
	外来患者の増加を図るため、新規患者獲得に努める。	○	健康Cと打ち合わせを行い、相澤病院で専門的に検査・治療を行う必要性のある患者以外で、										
	地域サロンへの参加等を行って東病院の機能を紹介する。		二次検査、診療が必要な患者の受入運用を定めた。										
			相澤東病院常勤医・非常勤医へ取り組みと運用の説明をして、運用開始。3月末迄に76名受入れ。										
2.　特定健診・後期高齢者健診の対応	健診結果に基づいてかかりつけ医のいない受診者、専門的診療が必要な受診者を相澤東	○	国保特定健診・後期高齢者健診を7月より開始、9月末迄に163名実施。										
	・相澤病院で診療するようにする。慈泉会が有している事業体全体で患者数の増加を図る。		特定保健指導は16名実施、実施率は88.8%。										
			健診後、結果説明や継続診療に繋がる方もおり，外来患者増加に繋がっていると思料。										
			10月からは健康センターで対応出来ない法定健診（雇用・入学等）の対応体制を整備。										
			3月末迄に一般の入職時健診を2名実施。										
			令和3年度に、特定健診・特定保険指導の集合契約（日本人間ドック学会）に参加し、松本市以外の										
			市町村の特定健診、協会けんぽの特定健診にも対応できるように手続き済。										
			長野県医師会との委託契約（集合契約）は例年通り参加予定。→委任状提出済み										
3.　2020年度診療報酬改定における対応	2020年度診療報酬改定における施設基準・算定可能項目について、2019年度内に調整、	←→											
	対応出来ない項目について早期に対応する。	○	改定について届出・算定が可能か否か、診療部・看護・薬剤・リハ・栄養科と打ち合わせを行い、										
	（人的なものや研修受講等などについて必要に応じて確認して対応する）		事務的に施設基準要件を確認し、期日までに届け出た。										
			算定要件で研修等必要なものは、スケジュールを確認して対応。										
			診療報酬上における医師の指示について不備があったので改善実施。										
			令和3年2月1日付にて、関東信越厚生局にオンライン診療の施設基準を届出。										
			令和3年度に向けて確認、現場指導、医事課との確認・調整してきた看護必要度は、										
			令和3年4月よりⅡで提出することとし、草間課長より厚生局届出、医事請求確認終了。										
4.　相澤東病院における介護保険事業の拡大	栄養士による居宅療養管理指導を拡大する。	←→											
	薬剤師による居宅療養管理指導を整備する。	○	診療部に取り組みを説明し、理解してもらい、指導指示が増加。										
			管理栄養士による訪問は、3月末迄に7件実施。薬剤師による居宅療養管理指導は今後の課題。										
5.　地域包括支援センター（中央・北部・南東部・中央南）との	地域包括ケアシステムの構築の一貫として地域包括支援センターとの情報交換会を開催し、	←→											
連携強化	意見、要望の集約をして、自院の運営強化を行う。	○	新型コロナ感染拡大の影響から電話・メール等による連携を密にした。										
			そうした中、10月には東部地区にて感染予防の講義、11月にはウォーキング講座、										
			第1地区でいきいき体操への参加、聴覚障害者成人学校で新型コロナウイルス感染症対策の講演を										
			実施。また、中央包括支援センターによる地域包括ケア会議へ出席。										
			1月の講演会は新型コロナ感染拡大のため中止。										
6.　相澤病院、相澤東病院、地域在宅医療支援センターとの	①定期的に事例検討会を開催し、各事業体で提供した支援について情報交換および	←→											
連携推進	課題の検討をする。	○	7月16日に3事業体合同症例検討会を開催し、グループワークで意見交換を実施。										
	②各事業体の機能や強みを知ること、顔の見える関係作りをする事で協働体制の強化を図る。		9月17日、11月19日にも開催、看護師のほか、リハビリ、管理栄養士、介護福祉士等も参加。										
	（2ヶ月に1度程度を予定）		事例検討、グループワークをして退院支援について3事業体で考える機会となっている。										
			1月、3月は新型コロナ感染拡大のため中止。										
7.　機能評価受審における準備	開院5年目であることから自院の運営について院内チェックを行い第三者評価を受審することで	←→											
	運営の質向上を図る。	○	機能評価サーベーヤーを務めている武井看護部長の指導のもと、取り組みを開始。										
			規定・手順の更新・作成等機能評価に向けて対応中。										
			各部署で業務手順等の見直し・策定を行い、機能評価要件に相応した体制作りに着手。										
			評価機構の自己評価チェックリストを担当部署が自己評価を実施して、改善箇所を抽出予定。										
			令和3年度プロジェクトとして、4月にプロジェクト設置。										

2020年度事業計画

◎：計画上回り　○：計画通り　×：計画下回り　未：未着手　※：中止

～職員一同は、慈泉会のバリューを行動指針とし、ビジョン達成に向けベクトルを合わせ、変化をチャンスと捉え、創意工夫によりスピード感を持って業務を遂行する～

事業計画	概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【相澤健康センター】													
1.　専門性の高いドック・検診の実施	①がん健診DAY												
	・女性がん健診DAY（10/18）　※ｼﾞｬﾊﾟﾝﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨｰｻﾝﾃﾞｰに合わせて開催							★					
		○	10/26（日）、26名実施										
	②（継続）ドック・検診												
	・脳ドック	←→											
		×	昨年度と比較して417件減。4～5月、1～2月はコロナ感染拡大に伴うドックキャンセルが影響し減少										
	・プレミアムドック（目標数：10名）	←→											
		○	3月末まで12名実施										
	・大腸CT（目標数：40名）	←→											
		×	3月末まで23名実施										
	・膵臓検診（目標数：12名）	←→											
		◎	3月末まで39名実施										
	③広報企画室と連携した、専門性の高いドック・検診の的確な広報活動	←→											
	・ホームページ、新聞広告掲載、講演活動等を通じ、広報活動を行う	○	膵臓検診、女性がん健診DAY、胃内視鏡検診等について新聞・ホームページに掲載										
			SBC：信州の医療最前線で大腸CT・膵臓検診について放映										
2.　特定保健指導の推進	・業務の配置を変更し、特定保健指導枠を増やす	←→											
		○	8月～3月で特定保健指導枠を118枠準備、特定保健指導実施件数は前年度より49名増の計102名										
	・本部と連携して、慈泉会職員の特定保健指導を				←→								
	健康センターで行う（目標数：対象者の30%を実施）	◎	3月末まで対象者の51%を実施										
3.　インバウンドドックの実施	国際課と連携してインバウンドドックを実施	←→											
		×	COVID-19感染拡大の影響により、受け入れができない状況が続く										
4.　受診者増加のための取り組み	①休日ドック（4/26・11/3・1/11・2/11）	★							★		★	★	
		○	ドック・健診実施者数・・・4/26：23名、11/3：113名、1/11：50名、2/11：78名										
	②アイプラチナクラブ会員の募集（目標数：200名）	←→											
	（継続的に二日ドックを受診いただく方の増加を目的とする）	×	この期間の入会者2名（会員数：145名）										
			2021年度はアイプラチナクラブの特典等商品性について再検討する										
	③午後ドックの検討	←→											
		○	1月、「内視鏡・午後ドックプロジェクト」を立ち上げ、午後ドック実現に向けた具体的な行動計画を検討										
			補助スタッフについては、健康センタースタッフで対応できる方向で調整中										

2020年度事業計画

◎：計画上回り　○：計画通り　×：計画下回り　未：未着手　※：中止

～職員一同は、慈泉会のバリューを行動指針とし、ビジョン達成に向けベクトルを合わせ、変化をチャンスと捉え、創意工夫によりスピード感を持って業務を遂行する～

事業計画	概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【地域在宅医療支援センター】													
1.　南東部地域へ新たなサテライトの開設準備	寿小赤に新たなセンターを開設し、松本をスリム化すると共に、地域のニーズに対応出来る拠点とする	○	2021年2月に新築工事の基本設計が完了、担当業務区域の検討を開始した。2022年2月開設に向け準備継続。										
2.　居宅介護支援事業所の新規開設	上半期中に事業所加算取得の対策として、要支援者を対象とする小規模の事業所を開設する	○	9/1、ヤマサホール2階ルームDに、居宅介護支援事業所「松本みなみ」を開設。ケアマネを3名配置し、3月末利用者数は117名。				★						
3.　安曇野センターへ「通所リハビリあづみの」の開設	10/1に「通所リハビリあづみの」を開設、業務開始予定	○	10/1、中田医院敷地内に「通所リハビリあづみの」を開設、3月末利用者数は78名。					★					
4.　訪問看護ステーションひまわり看護体制の構築	サテライトのガバナンス強化のため、管理者を養成し、チーム体制の構築を行う	○	ひまわり安曇野に主任を登用し、業務管理の徹底と効率化を進めた結果、新規利用件数が増加。										
5.　ヘルパーステーション「グリーン」運営状況の見直し	慈泉会の全体最適という視点のもとで、「グリーン」の収支状況改善に向け、関係部署と協議・検討	○	「グリーン」役職者と協議・検討を継続した結果、2020年度予算を上回る収益を得た。										

2020年度事業計画

◎：計画上回り　〇：計画通り　×：計画下回り　未：未着手　※：中止

～職員一同は、慈泉会のバリューを行動指針とし、ビジョン達成に向けベクトルを合わせ、変化をチャンスと捉え、創意工夫によりスピード感を持って業務を遂行する～

事業計画	概　要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【相澤(北京)医院管理有限公司】													
1.　北京天壇普華医院リハビリ事業（継続）	北京天壇普華医院でのリハビリ技術指導を継続する	←											→
		×	毎月1回の定期的派遣形式によるリハビリ指導は、2021年3月で終了。										
			2021年4月以降は、定期的な派遣方式ではなく、不定期で同院の要望に応じて、										
			リハビリ評価とスタッフ指導の依頼に適宜対応する方式とする。										
2.　北京漢琨（カンクン）医院リハビリ事業（継続）	北京漢琨（カンクン）医院におけるリハビリ科の管理運営と人材育成を継続する	←											→
		×	新型コロナウイルス感染症の影響を受けて同院の集患が当初の計画を大きく下回り、										
			病院自体が経営不振に陥っている。										
			これにより相澤北京への2020年度業務委託料の入金が遅延（2021年6月末までに入金予定）。										
			2021年度も継続して取り組む。										
3.　広東慈復医療科技有限公司との介護人材育成事業（新規）	広東省介護研究センターを拠点とした介護人材育成事業の支援を行う	←											→
		×	本事業を主管する省庁が、広東省人社部から衛生部に変更されたことで事業は一時中止となり、										
			2020年度の業務委託料は請求できずに終わった。										
			2021年度は顧問契約を結び継続して取り組む。										
4.　天津恒益(コウエキ)医薬科技有限公司（新規）	福建省晋江市社会福祉センター青鳥世嘉リハビリ病院における、装具療法の導入を支援する	←											→
		×	9月から出張による装具療法の指導が再開し、年間計6回の指導のうち3回が終了。										
			今年前半の新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、当初の計画を下回った。										
			2021年度は顧問契約を結び継続して取り組む。										
5.　天津泰達国際心血管病医院へのリハビリ技術支援（継続）	天津泰達国際心血管病医院へのリハビリ技術支援における相澤病院との	←											→
	コーディネート業務を継続する	×	新型コロナウイルス感染症の影響により今年の慈泉会と泰心医院との直接的交流は中止。										
			代わりに8月から10月にかけて、相澤北京から出張形式で職員を派遣し、リハビリ技術指導を実施。										
			2021年度も慈泉会の現地法人として技術支援を実施する。										
6.　訪日治療相談室の運営（継続）	訪日治療支援の窓口機能を拡充するとともに、現地で相澤病院のPR活動を実施する	←											→
		×	新型コロナウイルス感染症の影響により、健診希望者の日本への渡航は停止中。										
			治療については一部ビザの発給が開始されているが、在外公館（査証部）審査に拠る。										
7.　相澤北京設立5周年記念式典	2020年2月10日開催予定であるが、新型肺炎の蔓延により延期とした（時期未定）	※	新型コロナウイルスの影響で中止。										